ラムサール条約湿地登録

「渡良瀬遊水地」　×　協働

H28.3.31@国連大学

小山市の概要

■　栃木県第２の都市

・166,398人(2015.11.1現在)

■　豊かな自然

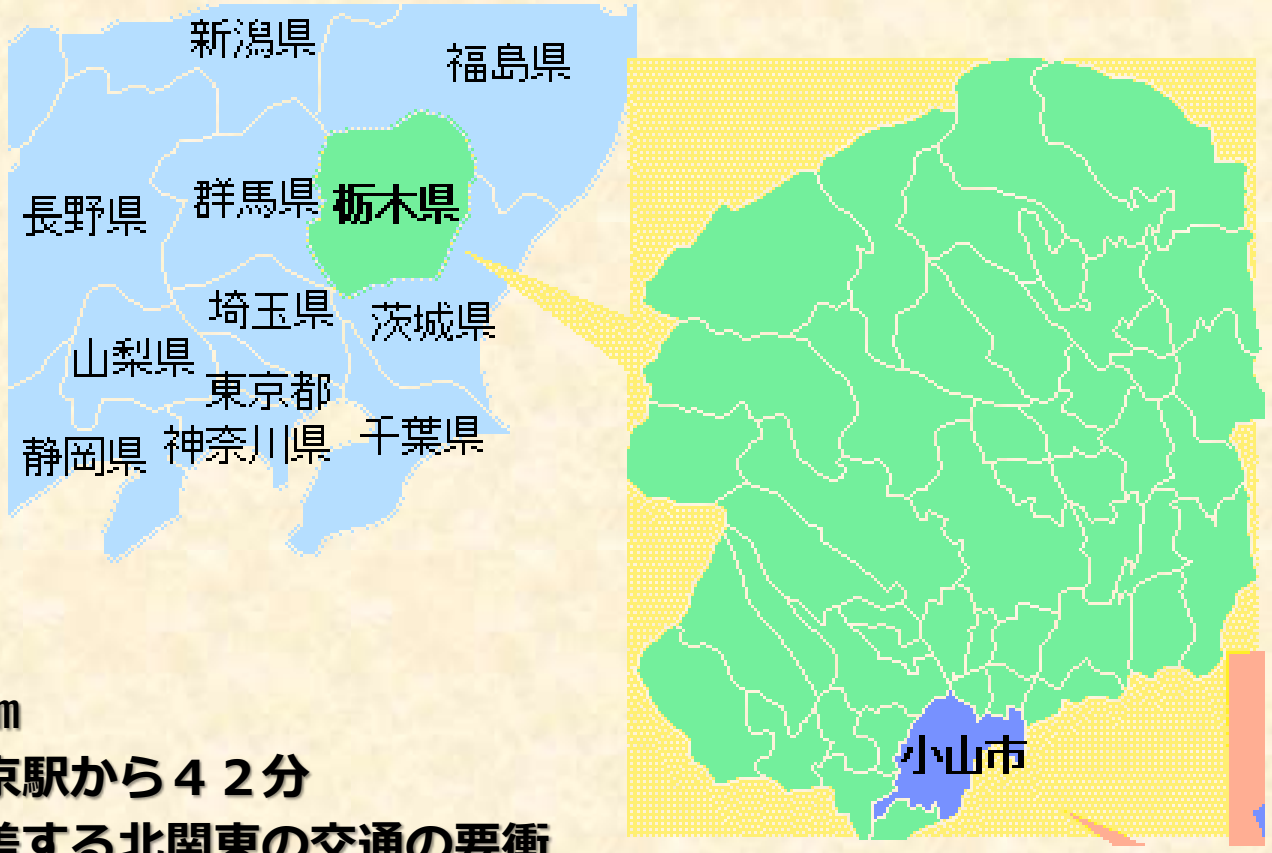
・渡良瀬遊水地

■　文化と歴史

・本場結城紬
・小山評定

■　立地利便性

・東京圏から６０㎞
・東北新幹線　東京駅から４２分
・国道、鉄道が交差する北関東の交通の要衝



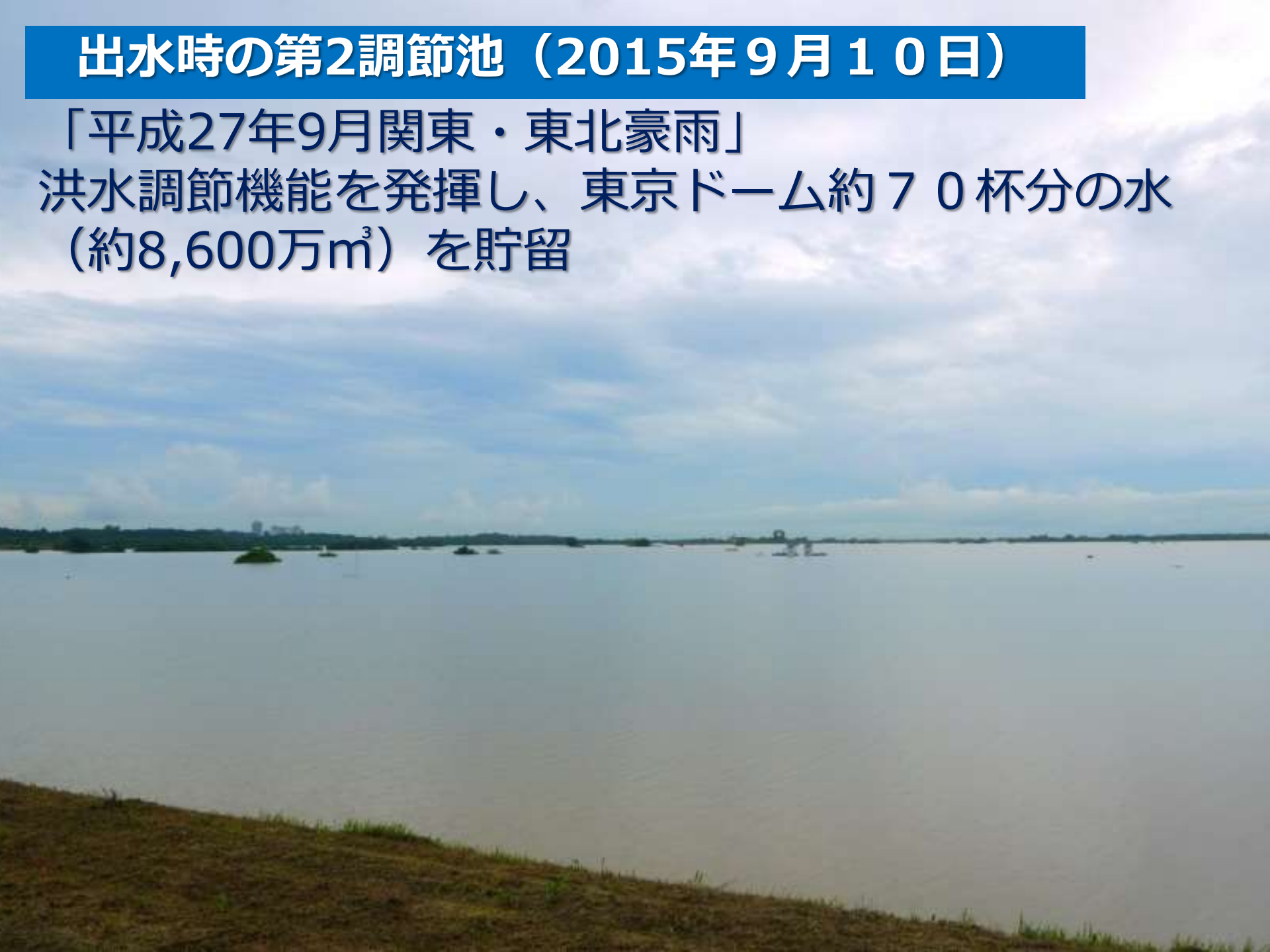
日本最大の遊水地「渡良瀬遊水地」

４県４市２町にまたがる面積約3,300haの国内最大の遊水地。渡良瀬川・思川・巴波川の３河川の洪水を、３つの調節池でため込み、下流の利根川に影響を与えないようにする。

「平成27年9月関東・東北豪雨」による出水

出水時の第2調節池（2015年９月１０日）

「平成27年9月関東・東北豪雨」
洪水調節機能を発揮し、東京ドーム約７０杯分の水（約8,600万㎥）を貯留



平常時の第2調節池（2015年９月７日）

絶滅危惧種183種を含む
約3,000種の動植物が集う
渡良瀬遊水地は生物多様性の宝庫

トネハナヤスリ
（絶滅危惧種Ⅱ類）

チュウヒ
（絶滅危惧種ⅠB類）

平成24年7月3日
ラムサール条約湿地登録

釧路湿原に次ぐ
国内第2位の広さを有するヨシ原

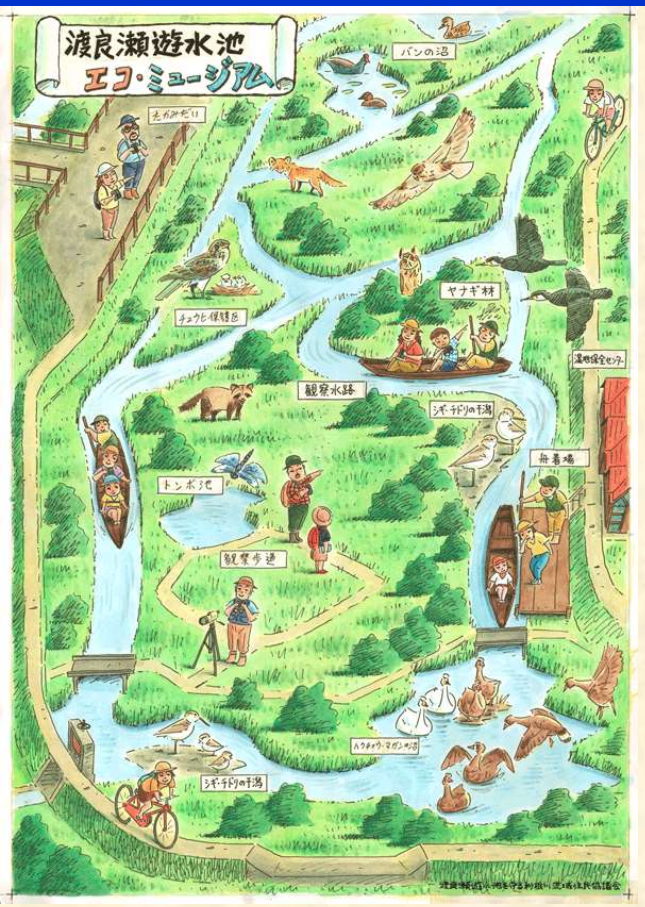
ラムサール条約の目的

保全
Conservation
賢明な
利用
Wise use
対話・教育・参加・啓発活動
Communication,Education,Participation,Awareness
CEPA

協働事業　1　将来に向けた保全
多様な主体（行政、市民団体、市民）

- 人の手が入った湿地の維持管理（里山的管理）
- 多様な主体の参画による維持管理体制の整備

住民の思いが、国・地方自治体の計画に反映



渡良瀬遊水池を守る
利根川流域住民協議会
エコミュージアムプラン
（平成11年2月策定）

国土交通省
利根川上流河川事務所
渡良瀬遊水地湿地保全・再生
基本計画
（平成22年3月策定）

小山市
渡良瀬遊水地第2調節池
エコミュージアム基本計画
（平成27年3月策定）

協働事業　1　将来に向けた保全
多様な主体（行政、市民団体、市民）

＜今後の課題＞

- 外来種除去活動の継続
- 周辺自治体との連携

＜これからの展望＞

- 湿地の里親制度（関連企業）
- 共通の目標を定めて事業を展開していくことによる一体感の醸成（日本遺産 等）

協働事業　２　エコミュージアムに向けて
国内外からの訪問者と小山市（行政）

- 生きもの再生調査
- 体験・観察プログラムの開発
  （Eボート体験、ミニヨシズづくり）
- エコツアーの開発
- 適正な利用に関するルールづくり　など

協働事業　２　エコミュージアムに向けて
国内外からの訪問者と小山市（行政）

＜今後の課題＞

- 2次交通の整備（最寄駅から徒歩では遠い。。）
- 認知度の向上、観光客の増加

＜これからの展望＞

- 地方創生関連交付金　活用（地域間連携）
- 都内でのPR活動
- シンガポールとの交流強化

協働事業　３　地場産業の推進①　農業振興
「ふゆみずたんぼ」農家と酒蔵、小売業者

	H24年度		H27年度
実施者数：	9軒	⇒	11軒
面積：	4.5ha	⇒	7ha

平成27年5月10日 小山市水田にコウノトリが飛来

協働事業　３　地場産業の推進①　農業振興
「ふゆみずたんぼ」農家と酒蔵、小売業者

＜今後の課題＞

・協力農家の増加、ふゆみずたんぼ面積拡大

＜これからの展望＞

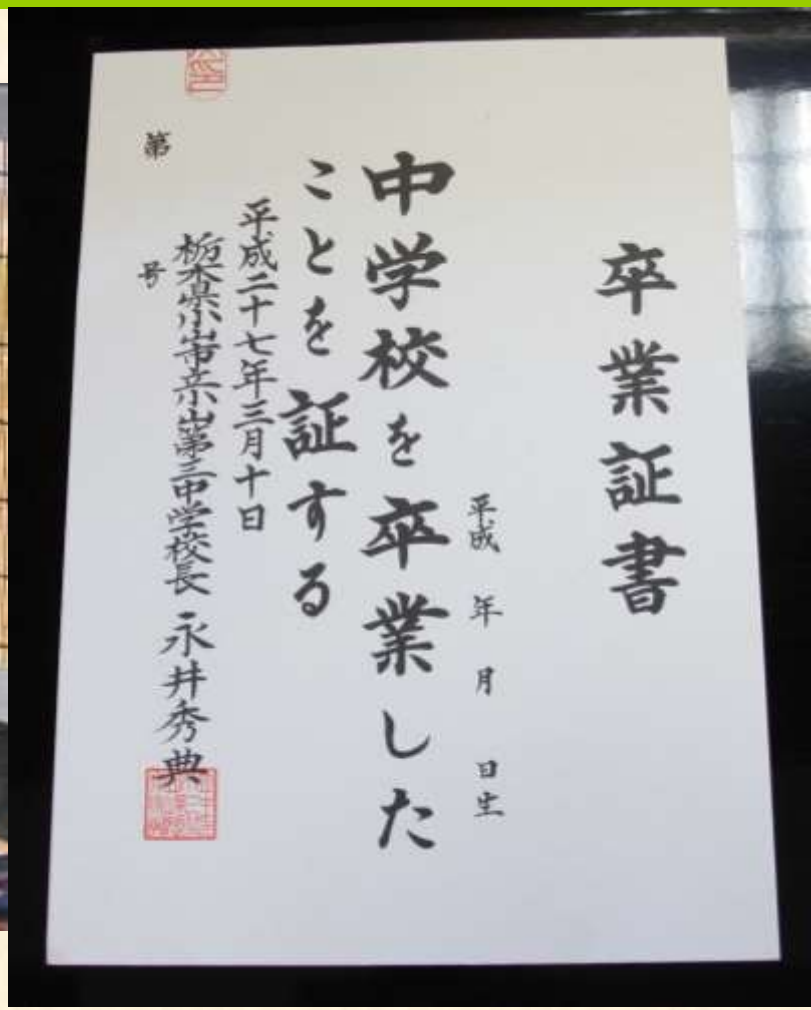
・販路拡大に向けた消費の確保

　オーナー制度導入

　首都圏学校法人での利用

協働事業　4　地場産業の推進②ヨシの活用
市内小・中学校とヨシズ農家

市内全小・中学校38校へのヨシズ設置



ヨシ紙を使った卒業証書

協働事業　４　地場産業の推進②ヨシの活用
市内小･中学校とヨシズ農家

＜今後の課題＞

・渡良瀬遊水地についての知識、郷愁の醸成

＜これからの展望＞

・現地学習を全小中学生に体験

・体験の成果として作文コンクール実施、表彰

新たな息吹を吹き込む春の風物詩

「ヨシ焼き」

渡良瀬遊水地、一度、お越しください。

GEOC に期待すること

適切な時に
適切な相手を
引き合わせること

小久保　智史

（栃木県小山市役所　総合政策部　渡良瀬遊水地ラムサール推進課）
（事業構想大学院大学　事業構想研究所　プロジェクト研究員）

栃木県出身。立教大学経済学部卒。大学卒業後、東京での公務員生活を経て、平成19年4月、小山市役所入庁。環境、企画部門を経て、平成25年から2年間、環境省自然環境局にて環境専門員として、生物多様性関連業務に従事。平成27年4月から現職。同8月からは、業務の傍ら、事業構想大学院大学・エコミュージアム地方創生プロジェクト研究の研究員として、ラムサール条約湿地登録「渡良瀬遊水地」関連振興事業の構想を練っている。